



Hiroshima City University Language Center

広島市立大学語学センター

Newsletter No.75 (2025.11.5)



先輩に聞きました！

ドイツ語・フランス語を学び、もっと先へ

今回のニュースレターでは、語学力を高めて留学や資格試験に挑戦した2人の体験談をご紹介します。

1つ目は、第二外国語で中国語を履修し、大学2年生の終わりまで全く留学を考えていなかった、という藤本さんの体験談です。

藤本さんはドイツへの留学を決めてからドイツ語学習を開始し、語学センターのランゲージチューター制度や授業で仲間と学習。留学で実践的な会話を伸ばし、帰国後も学習を継続しています。

2つ目は、入学から最速でフランス語の資格試験 DELF B1 に合格した三好さんの体験談です。

昨年度、フランスオルレアン大学での短期語学研修に参加。語学センターや図書館の教材、ランゲージチューター制度を上手に利用し、現在は、DELF B2 の取得を目指しています。

語学学習や留学に興味があれば、きっと参考になる内容です。

目次：

ドイツ語・フランス語を学び、もっと先へ	1
国際学部4年 藤本 彩奈	1
国際学部2年 三好 桜子	2
レアジョブオンライン英会話、日常英会話 25 分コース	
継続する上で力になったこと	2
Meet the Language Tutors!	3
ドイツ・ハノーバー専科大学 SELZER, Tobias	
タイ・シラパコーン大学サマースクール 2024・2025	
短期派遣報告展示	3
2025 年度前期 語学センター実施報告	4
知のトライアスロン、JLPT オンラインハーフ模試、 夏休み課外インテンシブ英語学習プログラム、 レアジョブオンライン英会話（前期・夏休み）、 視察報告	

「興味や関心に向かっていくための少しの勇気」

国際学部 4 年 藤本 彩奈



◆ベルリン旅行中の写真

私がドイツ語の勉強を始めたのは、大学2年生の冬頃からでした。大学入学後すぐは、必修の第2言語として中国語を選択し、2年間中国語を学びました。当時は、語学センターのランゲージチューター制度で中国語、英語の2ヶ国語を2人の留学生と練習していました。コロナ禍だったこともあり、オンラインでレッスンをしていたことをよく覚えています。その頃は、大学に来ている留学生さんと会話がしてみたい、広島に観光できている人と話したい、という理由で語学を学んでいました。

しかし、大学2年生の終わり頃、ヨーロッパの働き方に関心を持つようになり、自分が働き始める前に実際に現地で働いてみたいと考えるようになりました。それがドイツ語を学ぶことを決めたきっかけです。

留学を決めて、それからドイツ語を学び始めることに初めは不安がありました。そこで、ランゲージチューター制度で直接ドイツ人留学生と会話をしたり、既に帰国したドイツ人留学生と週に1度オンラインで個人レッスンをしてもらうなど、言語を話せる機会を意識的に増やしていきました。1人で勉強するだけでなく、ドイツ語ⅠとⅡの授業を当時の1

年生たちと受け、基礎を学びました。一緒に言語を勉強する仲間や先生がいてくれたことも大きかったと思っています。



◆手作りのイースターお祝いのお菓子と卵

留学先のドイツは、英語が話せる人が多い国ですが、スーパーやカフェといった身近な場所では多くドイツ語が話されていました。留学中、派遣大学で週2回ドイツ語の授業を履修していました。始めは英語とドイツ語で行われていた授業が、次第に全てドイツ語で行われるようになり、はじめよりも理解できることが増えていることを実感しました。



◆キャンパス内の図書館

留学中、ドイツ語で会話したり、英語で進んで会話をしようと思いつけられたのは、大学入学時からとにかく話せる機会を大切にし、自分の話す言語が相手に伝わる経験をたくさんしていたからだと思っています。もちろん、会話をした後で「あの文法間違えていたな」「あの単語を使えばもっとよかったかも」と考える事もまだまだ多いですが、正しい文法で話せているかよりも、相手に自分が言いたいことが伝わっているかを第一に考えて会話をし続けています。

私は大学2年生の終わりまで、長期留学をすることは全く考えておらず、選択肢の1つとも思っていませんでした。しかし、周りを広くよく見てみると、力になってくれる人の存在や、サポートしてくれるセンターや様々な制度があることに気づけることがあります。

ぜひ、留学や新しい言語を学び始めることに少しでも関心があれば、まず始めるための小さいことからでも初めてみてほしいと思います！

「フランス語との向き合い方ー DELF B1 合格を通してー」

国際学部 2 年 三好 桜子



◆ホストファミリーたちとパーティー！

こんにちは。今回は、私が DELF B1 に合格するために実践したことについてお話ししたいと思います。

少し恥ずかしい話なのですが、実は私は試験への実感がなかなか湧かず、本格的に対策を始めたのは試験の約 2 か月前でした。

まず取り組んだのは、「教材をたくさん買って自分にプレッシャーをかけること」でした。もちろんプレッシャーを与えるのも目的のひとつでしたが、私の考えとして、勉強は質だけでなく量も大切だと思っています。とはいえ、DELFL や DALF の教材は高価なので、みなさんは語学センターの教材を借りたり、図書館を活用したりするのが良いと思います。

また、ちょうどこの時期にフランス語教員を目指す フランス人インターン生が来ており、ランチュー（ランゲージチューター）を通じて 作文の添削や面接練習をしてもらいました。個人的には、これが 合格の大きな要因だったと思っています。同じ大学生であるネイティブスピーカーからマンツーマンで指導を受けられるのは貴重な機会なので、ぜひ一度チャレンジしてみてください。私はマンツーマンで受けましたが、希望すればグループレッスンも可能なので、友人と一緒に参加するのもおすすめです。また、毎日なんらかの形でフランス語に触れ続けていたことも、合格の大きな要因だったと思います。授業以外でも、音楽を聴いたりニュースを読んだり、できるだけフランス語に触れる時間を増やそうにしていました。

DELFL 試験は、英検とは異なり、4 技能（聞く・読む・書く・話す）を 1 日で受験しなければなりません。正直かなりハードです。私は 4 技能をバランスよく勉強していましたが、最大の課題は語彙力でした。過去問や予想問題で分からない単語を調べる程度しかしていなかったため、特に作文で苦戦しました。

先に述べたランチューのように、この大学には国際交流を促進する多くのプログラムがあります。私も昨年度、フランス短期留学プログラムに参加し、1 か月間ホストファミリーの家で生活しながら、提携校で授業を受けるなど、とても有意義な時間を過ごしました。短期間ではありますが、フランスの魅力を十分に感じられるよう工夫された内容で、きっともっとフランスが好きになると思います。参加を迷っている人がいれば、ぜひ思い切って飛び込んでみてほしいです。私自身、この経験はいまでも大きなモチベーションになっています。

現在は B2 合格を目指して勉強中ですが、B1 の反省を生かし、語彙学習を中心に進めています。みなさんもぜひ、自分に合った方法で楽しみながら学習を続けてください。



◆『美女と野獣』のモデルになったシャムボール城の外観

CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）とは？

CEFR（Common European Framework of Reference for Languages）は、言語能力を 6 つのレベル（A1 ～ C2）に分けて評価する国際的な基準です。

- A1・A2：基礎的なコミュニケーションができるレベル
- B1・B2：日常生活や仕事でのやり取りが可能な中級レベル
- C1・C2：高度な表現力を持ち、専門的な場面でも対応できる上級レベル

この枠組みにより、学習者の言語力を客観的に示すことができ、教育機関や企業などでも広く活用されています。



レアジョブオンライン英会話、日常英会話 25 分コース

継続する上で力になったこと



語学センターでは自習での英会話練習機会を提供するため、2022 年度よりレアジョブオンライン英会話を実施しています。2023 年度からは、なかなか続かない英会話練習の継続と習慣化を後押しできるよう、一定の条件を満たした参加者に対し、受講料の半額を給付する制度を開始しました。

このプログラムでは「話す力」を中心に、実践的な英語力を身につけたい初心者から上級者まで、レベルに応じたレッスンが可能です。レッスンを継続する上で力になったことについての参加者のコメントを以下にご紹介します。

【前期・夏休み参加者のコメントから抜粋】

- 先生からもらったフィードバックにいつも前向きな言葉がたくさん書かれてあったため、それが力になった。
- 教師の方はフレンドリーで英語を間違えることにマイナスの意識を感じなかったのでやりやすかった。
- 日常的に会話することによってハードルが下がり、緊張がほぐれ、以前よりも英会話に自信が持てるようになった。
- 夜寝る前にレッスンを受けることがルーティンみたいになって続けることができた。

日本人講師の学習アドバイスやアプリも利用できます。次回は 11 月に募集予定なので、奮ってご参加ください。

Meet the Language Tutors!

ランゲージチュータープログラムは、チューターの学生が、自分の母語や母語レベルの言語を他の学生（チューティー）に教えるものです。今回は、前期にドイツ語と英語のチューターとして10名以上のレッスンを担当したトビアスさんの記事です。

ドイツ語・英語

Into the Unknown

ドイツ・ハノーバー専科大学 **SELZER, Tobias**



Oh, hey, こんにちは。Me? I'm Tobias (トビアス), a 25-year-old German who is studying applied computer science in his master's program at Hochschule Hannover. Why did I come to Japan? Funny story, I was never really into Asia or Japan, that's what I thought at first. But nevertheless, I always wanted to travel around the world, so when a very good friend showed me a few years ago how enriching a semester abroad can be, I knew that was it, that's what I had to do! During my master's degree, I learned that a semester abroad was possible, so I let my group of friends persuade me to go to Japan. At first, it really scared me. My first trip abroad, my first flight was going to be to Japan?! To the other side of the world? But I also thought to myself, "I've always wanted to get to know other cultures from more than just a book or the internet." Besides, it would be a chance to further my education, experience exciting things, and, above all, make new friends. My uncle finally convinced me to sign up. Tokyo, 6 a.m. local time. Completely exhausted, full of adrenaline, overwhelmed by everything that was happening around me, was my first experience in Japan falling asleep on a bench at the airport while waiting for my friend, who still had about 8 hours to go to Tokyo. Even though it sounds like everything didn't go so well at first, this and my other experiences showed me that I can surpass myself and somehow master any situation.

In the evening, with almost no knowledge of Japan, the language, or what the next six months would look like for me, I arrived in Hiroshima. Very quickly, however, it became clear how interesting life in Japan and at HCU can be. I was able to participate in impressive events, was taught Japanese by a very motivating teacher, traveled a lot in Japan, and even dared to go to South Korea on my own. I also got to know bright and open-minded people who introduced me to Japan in a way that tourists probably never get to experience. Some of these encounters have turned into friendships, while others have faded away. Not everything is perfect; of course there are always challenges or unfriendly people, that's just how it is when you travel. Nevertheless, looking back, I can say that my semester abroad gave me so much, I got to meet so many friendly, helpful, and inspiring people, that I would describe it as probably the most important step of my life. I would even go so far as to say that I have come to appreciate Japan, its people, and its culture so much that I don't really want to go back to Germany. This is also why I extended my exchange to a full year.



"A photo from a lesson. Nami-san discovers that there is something special about counting in German. Numbers are usually read from left to right, but tens are read from right to left."

But now a few words about language exchange. During my studies, I decided to pass on my native language, English, and my experiences as an exchange student. Thanks to the Language Center, I was able to teach German and English to more than 10 Japanese students in one-on-one lessons, while improving my own Japanese. We laughed a lot, exchanged experiences, and helped each other to better understand our native languages and English.

Finally, I would like to encourage anyone interested in studying abroad to take the chance, even if it seems at first that you will face impossible challenges. There is always a solution, so don't let it get you down, stay curious, and try new things whenever you can. I would also like to thank all my acquaintances and friends for the wonderful time I had in Japan. To all the professors and staff who made many interesting topics as easy to understand as possible and always helped me when I had problems. You have all truly enriched my life. どうもありがとうございました。



タイ・シラパコーン大学サマースクール 2024・2025 短期派遣報告展示 期待以上の学びと感動！タイでのワクワク体験

語学センター廊下ギャラリーで、タイ・シラパコーン大学サマースクール参加者3名の短期派遣報告展示をしました。

5月12日～6月13日：サマースクール2024 参加報告

国際学部4年 森下 瑠仁さん

10月1日～10月31日：サマースクール2025 参加報告

芸術学部3年 A・Hさん、国際学部4年 S・Tさん

全員、楽しい写真やイラストが満載の力作で、シラパコーン大学での研修を始め、タイ現地の情報や費用についてなど、同プログラムへの参加を検討している人にはとても参考になる展示となりました。

6月16日～9月30日に再展示した前期常設展「短期語学留学、海外交流プログラム、海外からの受け入れ報告」では、国際学部卒業生 向 若菜さん作成パネル「JENESYS 2024 大学生訪韓団レポート」の展示もありました。有志のみなさんの参加は大歓迎です。



◆森下さんの報告展示

2025 年度前期 実施報告

いちだい知のトライアスロン

映画 DE 学ぼう！



『外国語（英語・第二外国語）を映画から学ぼう』をコンセプトに、比較的内容がわかりやすい映画を選出し、ランゲージラウンジで紹介を行いました。じっくり視聴したい人は、自習室で視聴可能です。窓口でお問い合わせください。

- 期間 : 4月8日（火）～8月8日（金）
場所 : 語学センター ランゲージラウンジ
作品 : 4月 マイ・エレメント（英語）・スラムドッグス（英語）
5月 すずめの戸締まり（英語）・カラーパープル（英語）
6月 セラヴィ！（フランス語）・ミッション：インポッシブル デッドレコニング PART ONE（英語）
7月 スポンジ・ボブ 海のみんが世界を救 Woo！（英語）・カンナさん大成功です！（韓国語）
8月 ハイスクール・ミュージカル2（英語）



JLPT N1-N5 オンラインハーフ模試（留学生対象）

全留学生を対象とした JLPT 日本語能力試験対応のオンライン模擬テスト（e ラーニング）を実施しました。受講期間は JLPT 受験日直前の 1 か月間で、受講期間に 2 回分の模擬試験を受け、その後に復習しながら受験対策ができます。2025 年度後期も実施します。

2025 年度前期実施

- 学習内容 : JLPT 日本語能力試験対応模擬テスト
- 対象レベル : N1 ～ N5 全レベル
- 受講期間 : 6月7日（土）～7月6日（日）
- 受講者数 : 9名（内訳：N1 5名、N2 3名、N3 1名）
- 受講料 : 無料

課外プログラム

夏休み課外インテンシブ英語学習プログラム

「CALL 英語集中」「e ラーニング英語」と同等内容の他に、リスニング、リーディング、文法に特化したプログラムがあり、それらを 1 ヶ月で受講します。

- 募集期間 : 7月28日（月）～8月15日（金）
実施期間 : 9月1日（月）～9月30日（火）
受講人数 : 一般プログラム 17名
リスニング特化型 3名
リーディング特化型 3名
文法特化型 4名
文法基礎 0名



レアジョブオンライン英会話

マンツーマンのオンライン英会話レッスンを受講し、受講前後にスピーキングテストを受験するプログラム。指定条件を達成した受講生に受講料の半額助成金が支給されます。

今年度はこれまでに、前期授業期間中と夏休み期間中の 2 回実施しました。後期と春休み期間も実施予定です。

【前期】

- 募集期間 : 5月26日（月）～6月2日（月）
実施期間 : 6月6日（土）～7月5日（金）
受講人数 : 12名（助成金受給者 8名）

【夏休み】

- 募集期間 : 7月25日（金）～8月1日（金）
実施期間 : 8月8日（金）～9月6日（土）
受講人数 : 9名（助成金受給者 6名）

受講料 : 7,980 円

*「受講率 70%」「スピーキングテスト 2 回受験」で、半額助成。

視察報告

- 6月16日 ハノーバー専科大学教員
7月8日 加計高等学校
7月10日 広島国際学院高等学校
7月11日 清水ヶ丘高等学校・呉青山高等学校
7月16日 佐伯高等学校
10月10日 華陵高等学校 PTA



発行日 2025 年 11 月 5 日
発行 広島市立大学語学センター
〒731-3194 広島市安佐南区大塚東 3-4-1
編集 堀本真由美、沖野佳代
Phone (082)830-1509 [内線: 6410]
Fax (082)830-1794
E-mail lang@m.hiroshima-cu.ac.jp
ホームページ
<https://call.lang.hiroshima-cu.ac.jp/lang/index.html>

